

組合だより

発行所
岡山大学職員組合
 〒700-8530 岡山市津島中2-1-1
 電話 086-252-1111 (代)
 (内線) 7168
 直通・FAX 086-252-4148

第75号
 7月30日
 2004年

岡山大学職員組合ホームページ <http://hb4.seikyoku.ne.jp/home/ODUnion/> メールアドレス ODUnion@mb4.seikyoku.ne.jp



2004年度新三役

- 執行委員長 中富 公一 (文法経・教員)
- 副委員長 小畑 隆資 (文法経・教員)
- 書記長 村原 精 (工・教員)
- 執行委員 村上 賢治 (農・教員)
- 執行委員 嶋 孝吉 (理・教員)
- 執行委員 荻野 勝 (環理・教員)
- 執行委員 三宅 新三 (法文経・教員)
- 執行委員 張 星源 (法文経・教員)
- 執行委員 尾上 雅信 (教育・教員)
- 執行委員 砂月 幸成 (理・教員)
- 執行委員 品部 善博 (環理・教員)
- 執行委員 山本 幹博 (農・教員)
- 執行委員 嶋 一徹 (農・教員)
- 執行委員 今福 茂樹 (附属・教員)
- 執行委員 岩田 知郎 (附属・教員)
- 執行委員 荒嶋 康晴 (医・技官)
- 執行委員 矢田 範夫 (医・技能補佐)

2004年度 新執行部誕生

74号でお伝えしたように、6月28日(月)開催の岡大職
 組定期大会で新年度方針が採択されるとともに、新執行部が
 誕生しました。その顔ぶれをご報告します。

2004年4月から
**教職員共済生協・自動車共済の
 ロードサービスを拡充しました!**

- 山崎 典子 (医・看護師)
- 酒井 峰男 (留・教員)
- 会計監査委員 平野 正樹 (文法経・教員)
- 阿部 浅樹 (農・教員)
- 選挙管理委員 岡田 美徳 (理・教員)
- 今津 勝紀 (文法経・教員)

座標軸

岡山市民劇場の7月例会は、「アンネの日記」だった。お仕着せ(?)のチケットが回ってくるので、演し物を選ばず、なんでも見る習慣になっていたとはいうものの、今、アンネは少スキついな、と私は思った。が、習慣上当日私は、岡山文化ホールへ向かった。折しも、おどろおどろしい雲が迫ってきたかと思うと文字通りバケツをぶちやける雨がきた。私はハンドルを回らして家路へ向かおうとさえ思った。だが、夕立は馬の背を分かつの譬えの通り、前方には晴れ間が開け青空が広がっていた。配布されたプログラムによると、アンネ上演の歴史は至つて永い。アンネを演じた女優さん、1956年の三井美奈・吉行和子を初めとして、その間榎山文枝、日色ともゑほか10人あまりに及んでいる。長い間、大勢の観客に支持されてきた演目なのだ。今回のアンネは花村さやか・藤田麻衣子二人の日替わり出演で、その日は、花村の出番だった。お芝居のアンネを見るのは初めだし、昔読

んだ時の辛い思いに私は圧倒されていたけれども、舞台が始まると私の気分は一転した。絶望的な屋根裏に僅かに差し込む日の光や青空に感激して、伸びゆく命を思いつきり生きるアンネの姿、アンネのことは、アンネの機転、アンネの恋、アンネの正義感：などなどが、私の気持ちを解きほぐし、明日を信じるアンネの希望が私の心を明るくした。収容所へ連行されるときさえ、広い世界を体中でエンジョイできるのを「アンネだけは、喜んだ」という生き残ったフランクの言葉が、絶望的な舞台を不思議に明るい雰囲気に変えた。私がアンネを読んだのは、まだ、戦後の余塵がくすぶっている時期であった。つい昨日までの恐怖の時代、もう二度と起きることのないはずの地獄絵をおそるおそる振り返るといった気持ちだった。今、アンネと家族や知人が息を潜めた隠れ家は、過ぎ去った昔の出来事ではない。むしろ目の前に立ちほだける黒雲である。アンネのように、明日を信じる勇氣と希望を失うまいと、私は舞台を凝視していた…。

(k)

散歩道

一時期に比べると、蚊の数ははつきりと減ったといえるだろう。網戸などお構いなしに、家の中に蚊が舞っていた時期さえある。

今では、家の中で蚊に刺されることは、めったにない。どうかして紛れ込んだ蚊に、たっぷり血を吸われてから、やっとなづきくことがあるくらいである。

それにしても、庭には蚊の生息地というかテリトリーというかがあって、そこに足を踏み入れると耳元にブーンというあの独特のうなり声が出て、たちどころに23カ所が腫れあがる。それが嫌で夏には、あまり庭に足を踏み入れない。だが、天気予報は外れ放しの空梅雨と、真夏さながらの猛暑で、庭木もぐったりしている。ともあれ、

帰宅してまずたっぷりと水を撒く

千枝子

むろん蚊の襲撃は予想して、新兵器を腕に巻いての水撒きである。蚊の音がすると、そちら

へ向けて新兵器をかざす。するといつの間にか、蚊は来なくなる。結構威力があるようだ。

水が、庭木や芝に行き渡るころ、台所から、夕食の香りがかすかに漂ってくる。きつと女房自慢のカレーに違いない。一汗かいた身体を流したあとあのヒリヒリする辛さが暑さを吹き飛ばしてくるだろう。

夏野菜の

カレーは辛いのが好き

千枝子

(k)

編集後記

編集子も夏バテ。何とか4ページ建てで、過半数代表委員会で、具体化をみた教員の裁量労働制につき詳細して、夏休みを迎えようとしたのだが。9月初旬の次号では、ぜひ実現させたい。

法人化後の大学像もまだまだ見えてこない面も多い。大学全体の意思決定のメカニズム、学内予算の配分の実態、処遇と結びつけた教員評価の実施のあり方など。

秋からの活動にむけて(法律相談所「ユニオン」は8月も開設)、「組合だより」も、こうした大学の具体像にもっともっと迫ってきたい。

(編集子)